

5月15日（金）御坊市・2026年原水爆禁止国民平和行進

日本政府は禁止条約の署名・批准を！！



5月15日水曜日。御坊市の平和行進です。御坊市庁舎駐車場で出発集会は開催されます。

集会前に、楠本誠司日高地区労議長と県事務局で要請行動をおこないました。総務課では、短時間仮屋基浩総務部長と懇談しました。

平和行進出発集会は、楠本誠司日高地区労議長の進行です。地元教職員組合の栗本さんが開会挨拶をします。次いで、県実行委員会から「平和行進は5月7日橋本市から歩いてきました。被爆者の方々は、核兵器が投下されたきのご雲の下がどうゆう世界となったかを、被爆の実相を伝えてきました。和歌山県には被爆者112名いますが、被爆の実相を伝える事が困難になっています。しかし、日高地域や西牟婁地域では新日本婦人の会の皆様方が原爆写真展を高校などで開催、被爆の実相を若い人に伝えていきます。」と紹介しました。次いで、三浦源吾御坊市市長のメッセージが紹介されます。「先の大戦から80年余りが経過し、戦争体験や記憶の風化が危惧されている中。核兵器廃絶を訴え、平和行進を続けている皆様の活動に敬意を表するものです。世界唯一の被爆国日本国民、核兵器の恐ろしさを忘れる事なく、永遠の平和を願い行動する事に大きな意味があります。今なお、世界では争いは絶えませんが一日も早く全世界に恒久平和が訪れる事を祈念してやみません。」古谷森幸総務部長が代読します。連帯の挨拶を楠本文郎さんがおこないます。わかやま市民生協の廣瀬暖さんが決意表明をおこない、最後、御坊市集会アピールが日高平和委員会の新田菱さんが読み上げ、拍手で確認されます。御坊市の平和行進は、市庁舎から国道24号線を北上しロマンシティまで歩き、再び市庁舎まで帰って来るコースを一行で歩きます。楠本文郎さんが、「核の傘はいらないぞ」「非核三原則を守れ」「核兵器を使うな」「日本政府は禁止条約に入れ」と市民にシュプレヒコールして訴えました。参加者は25人でした。本日の平和行進は、和歌山市です。

県原水協事務局